

【不祥事根絶に向けた本校の決意】（行動基準）

- 1 私たちは、子ども達を守り、育てます。
- 2 私たちは、暴力・体罰を許しません。
- 3 私たちは、法令等を遵守します。
- 4 私たちは、不祥事を許しません。
- 5 私たちは、地域に開かれた学校にします。

不祥事根絶のための行動計画

大竹市立大竹小学校
作成責任者 校長 野崎 光弘

区分	本校の課題	行動目標	取組内容	点検方法・時期
教職員の規範意識の確立	○ サービス研修において、内容を工夫しながら行っているが、一人一人が自分自身の課題として捉え、改善していこうとする意識の向上にまで至っていない。	○ サービス研修の方法や内容等を見直し、より体験的な研修や自己の課題に気づく研修を実施して研修効果が実感できるようにする。 ○ 計画的な研修とタイムリーな研修を実施し、職員の規範意識を高めしていく。	○ 全ての教職員を対象にサービス研修に係るアンケート調査を行い、方法や内容等の改善を図る。 ○ 定期的な面談を活用するとともに、アンケートの結果等から必要がある者にはその都度面談を行う。	○ 学期に1回、サービス研修についてのアンケート調査を行う。 ○ 児童や教職員の状況を把握するために、管理職が1日数回校内を巡視する。
学校組織としての不祥事防止体制の確立	○ ともすれば教職員個人の技量に依存しがちであり、学級指導にあたる場合は、一人になることが多く自己の思いを優先させがちになる。	○ 教職員同士のコミュニケーションをさらに促進し、組織で仕事を進めることができるようにする。 ○ 学年団の機能を活かし、日常的に取組や児童の様子、悩み等を話せる雰囲気作りを行う。	○ 学年会や各委員会等で互いの仕事の進捗状況を確認し、特定の者に負担がかからないよう集団でサポートする体制をつくる。 ○ チーム大竹小を意識し、日常的に助け合いながら職務にあたることで、組織で不祥事を防止していく体制を作る。	○ 月に1回、企画運営委員会で情報を交換し、状況を把握する。 ○ 月に1回、学年主任会で情報交換を行い、状況を把握する。
相談体制の充実	○ 「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の認知度が、高いとは言えない。 ○ 学習指導や生徒指導、保護者対応等多くのストレスを抱えながら教職員は職務にあたっている。	○ 「体罰、セクシュアル・ハラスメント相談窓口」の周知や校内掲示を工夫し、相談しやすい体制をつくる。 ○ 困ったときに相談しやすい校内体制を作る。	○ 学校だよりで保護者等に周知するとともに、校舎内全ての教室にポスターを掲示し、担当の教職員を明示する。 ○ 年間2回、体罰・セクシュアル・ハラスメントのアンケートを児童・保護者を対象に行い、生徒指導主事を中心に組織で対応して行く。 ○ 大竹市子ども相談室等の関係機関とも連携を図り、相談内容によっては他機関を紹介しつなげていく。 ○ チーム大竹を合い言葉に、日頃からチームで対応する雰囲気を作り、相談しやすい体制を作る。	○ 7月と2月に児童と保護者及び本校教職員を対象にアンケートを実施する。 ○ 学期末懇談会における保護者からの聴取記録を作成する。 ○ 拡大委員会で小中学校や関係機関との連携を図る。